

祇園小学校 校長だより（第57号） 令和元年度第22号 令和2年2月17日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

校訓の「高い理想」について考えたこと

手元にある「広辞苑第5版」（岩波書店）によると、「理想」とは、「行為・性質・状態などに関して、考え得る最高の状態。未だ現実には存在しないが、実現可能なものとして行為の目的であり、その意味で行為の起動力である。」と記載してあります。

私事で恐縮ですが、小学生の頃は、「プロ野球選手になりたい」と思っていました。高い理想を描いていたのですが、当時熱中していたソフトボールの練習に励むうえでの起動力になっていました。振り返ってみると、「プロ野球選手」という高い理想には届きませんでした。当時描いた理想に対する後悔はありません。反省するとすれば、少しでも理想に届くような努力（例えば、食事をしっかり摂りからだづくりをする、トレーニングを工夫する、勉強に真剣に取り組み脳を発達させる、厳しい練習に耐えうる心を鍛えるなど）をすればよかったという思いがあります。

子どもの成長に伴い、理想は様々に変化していくものと思います。高い理想を描き、理想を目指して、現実的な努力を幅広く、かつ深く行うことができるようになってほしいと願っています。

祇園歴史の旅（その57）「戦後佐世保の再出発」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「佐世保は、もともと軍港として成長した街だったので、敗戦で海軍を失ったあと、今後の佐世保をどのような街にするのかを話し合う必要がありました。そのため、戦後間もなく『佐世保市復興委員会』が結成され、さまざまな復興計画が練られました。そして、復興委員会は、新佐世保市の進むべき道として、国際貿易港、漁業基地、平和産業都市、観光都市を示し、これらの実現を目指して、佐世保は再出発することになったのです。こうした中で、戦後、初めて公選によって選ばれた中田正輔市長は、旧海軍が残した土地や施設を譲り受けて、産業を育成しようと考えました。そこで、旧海軍の財産を市の財産とするための法律、『旧軍港市転換法』いわゆる『軍転法』の制定に向けて、かつて軍港だった横須賀、呉、舞鶴の3市とともに運動を起こしました。

中田市長は、1950年（昭和25）の市議会で

『平和宣言』を行って、平和商港建設に向けた決意と『軍転法』の必要性を訴えました。市民の願いと熱意により国会を通過した『軍転法』は、その年の6月に行われた住民投票で、投票率89%、賛成率97%という圧倒的な支持を受けて成立しました。『軍転法』にかける市民の期待は、それほど大きなものだったのです。『軍転法』の成立によって、旧海軍の土地や施設が市の学校や公園などに転用され、旧海軍工場はSSK（佐世保船舶工業・現佐世保重工業株式会社）となりました。こうして、佐世保市が目指した平和産業都市、国際貿易港の実現に向けてようやく明るい兆しが見えてきました。ところが、やっと復興への一歩を踏み出した直後、今後の佐世保の歩みを決定付ける大事件が起こったのです。」

（次号に続く）

今回は、「朝鮮戦争と佐世保、軍港再び」と題して、朝鮮戦争や日米安保条約と佐世保との関連などをご紹介します…。